

海外の特許情報学会の状況, および 情報検索担当者への提言

都 築 泉*

抄 録 世界の特許情報専門家が参加する国際規模の会議・学会の代表例として、米国で開催されるPIUG, 欧州で開催されるIPI-ConfExがある。これらの場は、成果報告のみならず、様々な情報交換の場となっている。しかしながら、これら会議への日本からの参加者はごく少なく、内容についてもあまり知られていない。グローバル化と言われている昨今、国内のみならず海外にも目を向けて情報を取得し、活用していくことは重要である。これら海外の学会の運営方式には、参加者同士のコミュニケーションや意見交換の場を積極的に設けるなど、参考になることも多い。

本稿では、PIUGとIPI-ConfEx, および中国で開催されるPIACへの参加経験に基づき、これらの紹介とあわせて、国際会議へ参加する意義について私見を述べる。

目 次

1. はじめに
2. PIUG
 2. 1 PIUGの概要
 2. 2 PIUG 年次会議
 2. 3 PIUG 2016の発表より
 2. 4 参加の感想
3. IPI-ConfEx
 3. 1 IPI-ConfExの概要
 3. 2 IPI-ConfEx 年次会議
 3. 3 IPI-ConfEx 2016の発表より
 3. 4 IPI-Award
 3. 5 Knowledge Exchange
 3. 6 参加の感想
4. PIAC
 4. 1 PIACの概要
 4. 2 全体スケジュールなど
5. 上記以外の海外情報入手の場
6. 日本の学会と海外の学会との比較
7. おわりに

を入手できる国内の学会・催しとして下記がある。いずれも年に1回の開催である。

(1) INFOPRO¹⁾

10月～12月初旬に開催。2015年の参加者数約250名。科学技術振興機構（JST）、情報科学技術協会（INFOSTA）の共催。

(2) 日本知財学会学術研究発表会²⁾

2011年度までは春期、2012年度より秋期に開催。主催機関は日本知財学会。

(3) 特許・情報フェア&コンファレンス³⁾

“学会”とは異なるが、特許・知財分野の情報収集の場として大変有用。秋期に開催。2015年の参加者は約18,000人。主催機関は、発明推進協会 日本特許情報機構、フジサンケイビジネスアイ、産経新聞社。

これら以外に、特許情報のベンダー各社が開催しているセミナー・説明会・製品発表会や関連するニュースリリース等も、特許情報に関わ

1. はじめに

特許・知財情報関係の研究発表や最新の情報

* HITサービス研究所 代表
元大阪工業大学知的財産研究科 准教授
理学博士 Izumi TSUZUKI

る実務家・研究者にとって、大いに役立つ。

一方、海外で開催されている特許情報関係の学会あるいは情報収集の場としては、

(4) PIUG⁴⁾ (The Patent Information User Group；米国で開催)

(5) IPI-ConfEx⁵⁾ (International Patent Information Conference & Exposition；欧州で開催)

が挙げられる。残念ながら日本からの参加者はごく少ない。また、近隣国で開催されている学会・情報収集の場としては、

(6) PIAC⁶⁾ (Patent Information Annual Conference of China；通称：中国特許情報フェア；中国の北京で開催)

がある。

本稿では、これら複数日にわたって海外で開催されている特許情報関係の会議、特にPIUGとIPI-ConfExの年次会議について紹介し、参加の意義やメリットを考察し、特許情報に関わる方々の一助としたい。

2. PIUG

2.1 PIUGの概要

PIUGは、特許をはじめとした知的財産の重要性、特に特許データベースの重要性を広め、特許検索者が議論をしたり、情報交換をする場を提供することを目的とし、特許情報の専門家のための非営利団体として1988年に米国で設立された。複数日で開催される最初の国際会議が行われたのは1998年である。

以来、特許調査担当者・特許情報専門家のレベルアップ・情報交換・研鑽の場として活動を続けてきた。特許弁理士、特許関係の機関、ライセンス専門家、特許情報研究者、特許情報ベンダー、特許情報と文献の専門家などで構成され、米国、ヨーロッパ、インドなどの24カ国の500人以上がメンバーとなっている。その構成

は、企業での特許検索専門家が300名近く、100名以上の特許情報コンサルタント、法律事務所の特許調査を行っている80名以上の専門家、他にも学術研究機関での調査担当者等も含まれる。彼らは、フォーチュン (Fortune) 500の多国籍企業、主要な大学やIP法律事務などで勤務し、特許性、FTO調査、特許の有効性調査等に従事している。近年は、戦略的な革新ツールとして特許情報分析も行っている。

また、情報発信活動として、PIUGwikiにより、年に2～4回程度、ニュースレターを発信しており、世界中に1,800を超えるメンバーが受信している。このニュースレターには、メンバーの記事、給与調査の結果、検索テクニック、ミーティングレポート、DBベンダーやプロデューサーの情報などが掲載される。さらに、LinkedIn, Twitterを利用した情報発信も行っている。

組織の運営方針は、会長をはじめとして7名の代表者 (Board of Directors) により決定されている。具体的な活動に際しては、ボランティアベースで主要メンバーが協力して活動しており、これらの活動貢献者で特に寄与の大きかった人は、年次会議で表彰される。

PIUGのメンバーであるための年会費は\$95であり、例年、5月に米国で年次会議 (PIUG Annual Conference) が開催される。開催地は、2016年5月はワシントン州のバンクーバー、2015年はイリノイ州のランバード、2014年はカリフォルニア州のガーデングローブであった。年次会議は5日間だが、主要行事である研究発表は5日の内、真ん中の3日間であり、初日と最終日はワークショップやレセプションが行われる。

他に、やや小規模な形で、例年2月にPIUG Biotech Conferenceが、10月にはPIUG Northeast Conferenceが開催されている。また、2016年9月には、北京で開催されるPIACの中で半日の

セッションを組み、PIUGとしてはじめて米国外での催しを行う。アジア情報への関心の高さと、米国外へも活動を広げようという意図が表れている。

以下、PIUGの学会活動の中心である年次会議について紹介する。

2. 2 PIUG 年次会議

ここでは、2016年5月21日(土)~26日(木)に米国のワシントン州バンクーバーで開催されたPIUG2016について紹介する。参加者は約200名、内、日本人は5名であった。

出展参加は21機関で、日本でも馴染みの深い特許データベース関係のベンダー各社が参加していた。初日の夕食パーティーや学会3日間の食事は参加費に含まれている。実質的には、これら出展各社がかなり負担する形になっている。PIUG2016のスケジュール概要を表1(文末)に示す。

2. 3 PIUG 2016の発表より

基調演説は、Marc Adler LLCのMarc S. Adler氏より、特許戦略コンサルタントの立場からの特許情報の重要性についての講演であった。その後、実質3日間の学会では、ベンダーやサービス会社からの短時間の製品紹介を除き、パネルディスカッションの2テーマと約30の発表が行われた。発表タイトルを表2(文末)に示す。

発表内容は、特許情報分析、特定技術分野の特許調査手法、分析・調査ツール、特許の価値評価、訴訟関連情報、競合分析等、幅広い分野からの研究発表がされていた。日本の同種の学会と比較すると、発表テーマの研究分野や取り扱いにはさほど大きな違いは無いように思われる。しかし、たとえば、特許調査専門家に与える資格についての欧米にまたがる取り組みや、ビジネストrendや訴訟と関連付けてのテーマ

が散見されるなど、情報や研究のとらえ方が広い視野に基づいていると感じる。また、ベンダー各社からの20分程度以上の、まとまった時間の発表では、自社ツールの特徴を生かす形のものであれば、単なる製品紹介や使い方の説明だけではなく、具体的な事例を盛り込んだ戦略的な発表がされており、興味深いものであった。



図1 PIUG会場にて、PIUG2016開催時の会長 Elliott Linder氏(中)、会議プランナーの Erin Fontanaさん(右)と筆者(左)

公的機関からの発表としては、EPO(欧州特許庁)から2016年以降のEspacenetの強化として、全文検索サービス、また統計機能サービス EpatStatの紹介がなされた。USPTO(米国特許商標庁)からは、グローバル・ドシエ等、最近の取り組みの紹介があった。このような海外情報は、日本にいても遠からず入手できる情報ではあるが、やはり直接に発表を見聞きし、展示会場でもいち早く説明を聞くなどすることにより、一歩先んじて具体的な情報に触れることができる。このような海外で開催される国際会議・国際学会に参加するメリットの一つと言える。なお、EPOからは、プレゼンや出展のみならず、司会を担当するなど、PIUGの活動との連携が強いことをうかがわせた。

日本からは2名の報告があった。その一つは、特許検索競技大会⁷⁾の実行委員長であるN氏による大会の紹介、特に、2015年度には国際部門

として海外から特許検索の専門家を招待して行った活動の紹介があった。会場からは、これからも海外から参加できるのか、などの質問が出て、高い関心が示された。

なお、2014年、2015年には、筆者もN氏と共同で発表し、特許検索競技大会の活動紹介を行った。事前の講義やトレーニング研修の有無や、出題言語は英語でも提供されるのか、好成績をあげれば昇進や昇給に結びつくか、などの質問を受けた。



図2 PIUGの展示会場

2. 4 参加の感想

特許データベースやシステムベンダーの方々がユーザーの方々と共に活躍している感が強い。たとえば、PIUGの前会長は、Questelに勤務していたElliott Linder氏であり、Thomson ReutersのBrooke Gunter氏は一日目の午後の最初のセッションの司会をしていた。また、PIUGは有志により運営されている非営利団体であるが、表2のように、USPTOの発表者やEPOからの司会者や発表者もあり、EPOは出展も行うなど連携は強く、これらの特許庁とは官民の垣根を越えて協力関係にあることが印象的であった。

残念なのは“予稿集が無い”ことである。5～10行程度の抄録は、事前にWebで確認でき、当日の配付物にも掲載されているが、学会に出

席している間は、それ以上の資料は無い。ひたすら、プレゼン画面を見て、英語の説明を聞いているだけ、という状態なので、なかなか負担が大きい。プレゼン資料は、学会終了後、2週間ほど後に、PIUGホームページに掲載され、会員はアクセスしてダウンロードできる。しかし、会議のその場では、内容に関してのある程度詳しい資料が無いことは、我々英語圏外の参加者にとっては、話の内容をフォローするだけでも壁がある。

3. IPI-ConfEx

3. 1 IPI-ConfExの概要

IPI-ConfEx は2004年以降、例年3月はじめ頃に欧州で開催される特許情報の専門家のための学会である。上記のPIUGは1988年に設立され、少なくとも1998年以降は年次会議を開催している。しかし、開催地は米国内であるため、欧州地域からの参加者にとっては遠い。そこで2004年以降、欧州での同様の国際会議として、IPI-ConfExが毎年3月初旬に開催されることになった。

第1回の2004年にはポルトガルのリスボンで開催され、その後の開催地は、たとえば、2005年にはスペインのバナルマデナ、2008年にはスペインのセビリア、2009年はイタリアのベニス等、ヨーロッパの観光地・保養地で行われることが多かった。一方、欧州の企業活動の中心地はドイツであり、ドイツの主要都市は企業メンバーにとって参加しやすい、ということで、2014年はドイツのベルリンで、2016年は同じくドイツのミュンヘンで開催されている。2017年には、3月5日～8日に、イタリアのローマで開催されることになっている。2004年の発足以降、数年間は300名を超える参加者がいたとのことであるが⁸⁾、近年は減少気味で、2016年の参加者は約180名であった。



図3 IPI-ConfExの会場⁵⁾

組織としては、IPI-ConfExと先に述べたPIUGは別物であるが、参加者や主要メンバーは一部重複している。後述のIPI-Awardの表彰式は、表彰対象者の都合により、PIUGの年次会議もしくはこのIPI-ConfExのどちらかで行うことになっている、など、関連は深い。

PIUGとの大きな違いは、PIUGは学会であり、組織として存在し、活動の一環として年次会議を開催していることである。PIUGのメンバーは、年会費を支払って会員登録し、普段からニュースの提供等を受けている。一方、IPI-ConfExは、欧州地域の特許情報専門家や関連組織の支援を受けながら、IPI-Organisationが実行機関となり、毎年開催している学会形式のイベント、とも言える。IPI-Organisation自体は、このIPI-ConfEx開催の遂行機関であるが、恒常的に存在する学会ではないので、学会の年会費やメンバーリストなどは存在しない。年次会議への参加費は、PIUGに比べてやや高い。(PIUG年次会議への参加費は、PIUGの会員なら早割で\$525であるのに対し、IPI-ConfExの早割の参加費は€895。)

ただし、PIUG同様に、IPI-ConfExにもDiscussion Listという情報交換の仕組みがある⁹⁾。学会に参加できなくても、これらを活用すると世界の特許情報の動きをとらえる一つ的手段として利用でき、世界を広げることができる。

3. 2 IPI-ConfEx 年次会議

2016年のIPI-ConfExは2月28日(日)～3月2日(水)にミュンヘン(ドイツ)で開催された。例年通り、初日である2月28日の午後は、データベースベンダーや情報解析ツール提供企業によるワークショップが行われ、夕方にレセプションパーティーが開かれた。実質的な学会は、2月29日～3月1日の3日間である。

1日目(2月29日)の冒頭には、開催遂行機関であるIPI-Organisationの設立者、Ford Khorsandian氏から開会の挨拶がある。彼は米国の調査会社のTPR International¹⁰⁾の創立者・社長であり、IPI-ConfExの開催と運営は、彼の尽力と関係者のボランティアベースの協力によって開催・運営されている。

学会の全体スケジュールは表3に、発表タイトルを表4に示す(何れも文末)。

3日間の学会の間は、午前、午後共に間に一度休憩を挟み、大きな一つの会場でコンファレンスが行われる。隣の部屋では、約20機関の出展各社がブースを設け、参加者は、休憩時間や食後には、そこで飲み物と軽なお菓子などを楽しみながら、各社のブースを回って、質問をしたり、デモンストレーションを見せてもらうなどして過ごす。

初日の夕方には、例年、盛大な晩さん会が開かれ、その場でIPI-Awardの受賞者の発表あるいは表彰式が行われる(IPI-Awardについては後述)。2日目(3月1日)のイベントとして特筆すべきは、特定テーマについて、6～10人程度の少人数のグループに分かれての意見交換会“IPI Knowledge Exchange”であろう。3日目(3月2日)も通常の研究発表が行われ、夕方、少し早目な時間帯に閉会式が行われて終了した。

以前は、同時並行のセミナー的な形式で、著名な講師により、各国特許庁サイトの最新情報

や特許検索に関する知識や技術など、比較的汎用的なテーマについてのセッションが行われていたが、今回はそのようなプログラムは無かった。

3. 3 IPI-ConfEx 2016の発表より

表4に示すように、発表テーマそのものは、日本での類似の学会、たとえば、INFOPROなどとさほど大きな違いは無いように思う。日本と異なる点の一つとしては、先に記載したPIUGと同様に、ベンダー各社とのつながりがかなり深いことが挙げられる。短時間の製品発表のコマや比較的新規に参入してきた解析ツール提供会社の場合は、単なる製品発表やツールの機能紹介になるが、20~30分を確保した発表の場合、特に、長年、データベースサービスを行ってきたベンダー企業の場合は、それぞれの提供サービスを利用した内容であっても、テーマの方向性としては、「研究発表テーマに取り組む」という姿勢が強い。自社サービス以外のネット上の情報も利用し、研究テーマに組み込んでいる場合も多々あり、興味深い。また、EPOやWIPOなどの特許庁からの発表は、最新情報を身近に知ることができる有効な機会である。

今回、注目した発表を以下に挙げる。

① Global Dossier (Tool) - The One-Stop-Shop for Patent Information of the 5 Biggest Patent Offices, IP5

発表者：Ms. Monika Hanelt (PDG; Manager Patent Information, Agfa Graphics)

審査官を対象とした特許出願や審査に関連する情報（ドシエ情報）の一般ユーザーへの提供サービスであるグローバル・ドシエの最新の状況、および、このサービスに関して、IP5（5局：EPO, JPO, KIPO, SIPO, USPTO）、PDG (Patent Documentation Grope; 39欧州の大企業（製造業）からなる非営利団体）等が定期的ミーティ

ングを行い、ヨーロッパ企業の意見を反映してもらう取り組みについて実情が話された。

② What Legal Status Data Should be Exchanged by Patent Offices Worldwide - WIPO's Initiative and Progress of the Task Force (LSTF)

発表者：Mr. Young-Woo Yun - Senior Industrial Property Information Officer, WIPO

WIPOの最新情報、法的状況データの各国特許庁との情報交換について紹介があった。

③ European Patent Register - The Impact of the Unitary Patent and Other Developments

発表者：Ms. Yolanda Sanchez Garcia - European Patent Register Business Application Manager, European Patent Office

European Patent Registerのサービスについて、特に、Unitary特許への取り組み等について紹介された。

3. 4 IPI-Award

IPI-Award は、2000年に設立された特許情報に顕著な貢献のあった人を表彰するものであり、Technology & Patent Research (TPR) International, Inc.がスポンサーとなり、盾と賞金3,000ドルが授与される。受賞候補者は、毎年、会議参加経験者等から広く推薦をつのり、国際選考委員会（International Selection Board）が決定する。日本人も2000年より選考委員のメンバーとして加わっている。

過去の受賞者は‘Hall of Fame’に挙げられている¹¹⁾。日本人としては、元大阪工業大学知的財産学部長・研究科長の石井正氏が、IPDL（現：J-PlatPat）により日本の特許情報の広く世界への提供に大きく貢献した功績が讃えられ、2010年に受賞している。受賞者の中には、Mr. Montagu Hyams（2000年；Entrepreneur and founder, Derwent Information）、Mr. Pierre Buffet（2006年；Executive Vice

President, Questel Orbit), Mr. Harry Allcock (2007年; Vice President, IFI CLAIMS Patent Services) など, 商用データベースの提供を通じて日本の特許情報の利用者にもなじみ深い方々も多い(カッコ内は, 受賞年, 受賞当時の所属機関・役職等)。



図4 中央: IPI-Award2016の受賞者Ms. Annemie Nuyts, 右端: TPRのFord Khorsandian氏, 他の3名はいずれもEPOから(左端からMr. Lutz, Mr. Michel, Mr. Minnoye)¹¹⁾

3. 5 Knowledge Exchange

IPI-ConfExでは, 例年, 1~1.5時間程度のKnowledge Exchange(知識の交換)の時間が設けられている。2016年は2日目の午後, 15:30~16:30に行われた。これは, 参加者がそれぞれ関心のあるテーマについて, グループに分かれ, 自由に議論する, というものである。学会参加に先だって, 事務局から連絡のある約15のテーマ中から, 関心のあるテーマを申請しておく, 会議の場では, その「関心のあるテーマ」に従ってグループ分けされたテーブルに座り, 7~10名程度の当該グループメンバーでそのテーマに沿って意見交換する。各グループの議論のコントロールは, 予め, 事務局から依頼されているグループリーダーが行う。IPI-Knowledge Exchangeのテーマ例を以下に挙げる。

- ・セマンティック・サーチと分析
- ・データ利用と検索可能性 - アジアやアラビア等の言語の場合

- ・国際的な情報専門家のこれから - 個人の能力開発, QPIP¹²⁾, など
- ・IP5の活動とグローバル・ドシエ
- ・CPCと他の分類について - ヒント, 使い方など
- ・ビッグデータ
- ・特許の価値評価のツールと過程 - 最良の実践と経験
- ・あなたの情報部門の運営と活性化 - 経験と成功の共有
- ・専門的検索 - 無効化資料調査, 侵害予防調査, 法的状況調査
- ・特許の状況と分析

ディスカッションの内容は, グループ内で記録され, 会議の中で, 各グループリーダーが発表する。以前は, 翌日, パワーポイントに内容をまとめたり, ボードに貼るなどの形式で発表が行われていた年もあったが, 2016年には, Knowledge Exchangeの終了後, 休憩を挟んですぐに, リーダーがメモを見ながら発表する, という形式であった。



図4 Knowledge Exchangeの様子⁵⁾

3. 6 参加の感想

残念なことに, 先のPIUG同様に, 学会に先だつての「予稿集」のようなものは出されず, 5~10行程度の概要説明がWebに掲載され, 当日の配付資料の内容も同様である。従って, 会場での内容把握にはかなり壁がある。学会終了

後に、参加者に対して、発表に用いられたパワーポイント資料が掲載されているWebアドレスがメールで届き、各自、ダウンロードして利用できる。参加者以外には資料を配付しないように、と、厳重に管理されている。

4. PIAC

4.1 PIACの概要

特許出願件数が世界第1位となり、さらに年々急激に増加を続けている中国の知財情報は、日本の関係者にとっては大変重要なものとなっている。中国では、国策として、知財政策が強力に進められてきたが、その一環として、2010年から、毎年9月に2日間、北京でPIACが開催されている。

会場ではコンファレンス会場と展示会場が隣接している。また、初日の午後以降は、複数の部屋に分かれてそれぞれのセッションが行われる。参加者数は、非公式データで2010年に600人、2012年は1,200人となっている。出展機関は約50社である。全体的には、日本の特許情報フェアをやや小規模にした印象である。

4.2 全体スケジュールなど

2016年9月19日(月)～20日(火)に開催されるPIAC2016の公表されている全体スケジュールは下記のとおりである。

■ 1日目 (9月19日)

9:00- 9:20 開会式

9:20-12:10 基調講演 (合計8名の講演者による；途中休憩を挟む)

12:10-13:00 昼食

13:00-17:30 分野に分かれた3セッションと出展社による2ワークショップ、合計5プログラムが並行開催される。

■ 2日目 (9月20日)

9:00-12:30 合計6会場セッション・ワーク

ショップ・円卓会議が同時並行で開催

13:30-17:30 3会場セッションが並行して開催される。各セッションにおいて、複数の講演者が発表を行う。それぞれのセッションのテーマを下記に挙げる。

セッション1：IP戦略の開発とオープンイノベーション

セッション2：特許収益化の新しい形

セッション3：中国での特許保護強化

セッション4：ビッグデータと特許情報の活用

セッション5：知的財産と起業精神

また、2日目の午前中に開催される円卓会議での二つのテーマは、「セマンティック・サーチの現状と開発」と「特許コンサルティングに対するビジネスの啓発」であり、全体的に、特許とビジネス・起業・経済活動と結び付けた方向性が強いと感じる。SIPO, IPPH, KIPO, JPO, EPO, WIPO等の政府関係・公共機関、および、データベース・特許情報サービス機関から多くの発表がある。研究結果が報告される学会というよりも、日本の特許・情報フェア&コンファレンスを小規模にした印象である。なお、初日午前中の基調講演には日本語の同時通訳がつくが、他は、基本的に中国語もしくは英語(同時通訳)である。

5. 上記以外の海外情報入手の場

筆者は参加したことはないが、上記以外に、海外で行われている特許情報入手の場として、EPO-PIC¹³⁾とEast meets West¹⁴⁾が挙げられる。前者は、日本の特許情報フェア&コンファレンスに類似の催しとも言えるもので、欧州の各国特許庁の協力のもと、EPOにより例年11月前半に行われており、2016年は11月8日(火)～10日(木)に、スペインのマドリッドで開催される。

また、後者は、アジア情報入手の場として、EPOが例年4月に開催しているものであり、各国の特許庁の最新情報についての発表等も多く行われる。2016年には4月21日(木)～22日(金)に、オーストリアのウィーンで開催された。

6. 日本の学会と海外の学会との比較

PIUGおよびIPI-ConfExと、日本で開催されるINFOPROや知財学会と比較して、学会の在り方や違い、有益性を考える。

(1) 発表テーマ

表2、表4に示されるように、一般発表のテーマそのものは、日本と大きな違いは無い。一時、アジア情報の発表が多い印象であったが、最近は広範な分野で比較的偏りのない多様な研究発表・報告がなされている。EPO、USPTOなどの公的機関からのタイムリーな発表があること、また、今回紹介したような民間中心で行っている会議であっても、運営協力など、公的機関とのつながりが強い印象がある。

(2) 配付資料の問題

上記の海外で開催される学会・会議で、一番困ったことは、当日利用できる予稿集が無いことである。先に記載のとおり、5～10行程程度の抄録は、事前にWebで確認でき、当日の配付物にも掲載されているが、それ以上のものは会議期間中には入手できない。会議の終了後になれば、出席者はWebによる配付で資料入手できるものの、当日、その場で利用できる予稿集のような資料は無い。そのため、発表内容の把握にはかなり負荷がかかる。日本の一般的な学会は、少なくとも当日、受付で予稿集を入手できる。この点は日本の学会のやりの方が、参加者にはずっと有難いと思う。

(3) 学会の場での運営、質疑応答

会場の広さや机・椅子の配置によると思うが、海外の場合は、会場に質問用のスタンドマイクが複数個用意されていて、「質問タイム」

になると、質問者はマイクの前に並ぶ。従って、複数の質問者がいる場合など、あと何人の質問があるのか、が判り易く、司会者がコントロールしやすい。また、質問者も、立ってマイクに向かって話すためか、質問内容が整理されている印象があった。

(4) 参加者同士のコミュニケーションの場の充実

PIUGでは、ワークショップが開かれる初日の夕方、初回参加者に会議の仕組みなどを運営サイドが説明しながら飲み物片手に気楽に会話する小パーティー、それに引き続き、参加者全員が参加する簡単なレセプションパーティーがある。参加者同士が気楽に話したり、久しぶりの再会を喜んだりする場となっている。IPI-ConfExでも参加者相互の交流会（5分ごとに席を変わり、向かい合った席の人同士で自己紹介や興味ある話題を話す）という場がある。

また、開会式や研究発表が行われる初日の夜には、参加者全員が出席し、盛大なパーティーが行われる。椅子式でゆっくり食事しながら、表彰式や主催者側からの各種発表なども行われる¹⁵⁾。これは学会の期間が3日以上に及ぶ国際会議だから可能なことだともいえるが、「研究発表」とはまた別に、会の雰囲気や知人との再会を楽しむ、という余裕が感じられる。

また、IPI-ConfExでは、開催期間の中日にKnowledge Exchangeが行われ、小グループに分かれての意見交換など、「コミュニケーション」を積極的に行おう、という方向性で運営されていると感じる。一般的な日本人にはちょっと苦手な雰囲気かもしれない。

(5) 発表を希望する場合は、かなり早い時期に発表を申し込む必要がある。たとえば、2017年3月初旬に開催されるIPI-ConfEx2017の場合、発表申し込みの締め切りは2016年9月23日である。なお、参加の申し込みは、かなり直前まで受け付けてくれるようであるが、当日申し

込みの仕組みは無い。また、参加費の割引適用は、IPI-ConfExの場合、開催日の3.5カ月前頃まで、PIUGの場合、2カ月弱前頃まで、また、会議開催のホテル宿泊の割引適用も、会議開催の1～1.5カ月前頃まで、と、結構早目なので注意が必要である。

(6) 知財情報専門家の調査能力・技能の評価に関連する話として、たとえば何かの資格についての話題が出ると、「その資格を取ると評価されるのか、昇給するか」という質問を良く受ける。社内での評価や昇進よりも、昇給するか、有利な条件での転職につながるか、という視点に関心があるように思う。

7. おわりに

筆者が海外の学会にはじめて参加したのは、2005年3月、スペインで開催されたIPI-ConfExのときである。以前勤務していた会社で出会ったRon Kaminecki氏（現在はPIUGのボードメンバー）が、IPI-ConfExについて、および、日本からも参加者がいると教えてくれたことが最初のきっかけになった。また、2005年から大阪工業大学に勤務し始めたため、海外の学会へも参加しやすくなったことが大きい。

その後、大学に勤務していた期間には、IPI-ConfExには2009年、2010年、2011年、2014年、退職後も2015年、2016年に参加し、それぞれ口頭発表またはポスター発表を行った。PIUGへは2014～2016年の3年間連続で参加し、2014年と2015年には、特許検索競技大会について共同発表を行った。これらの活動を通じて海外の特許情報分野の方々と知り合うことができ、多くの情報を得た。それらの情報を日本に持ち帰って、所属する研究会で紹介するなど、活動の広がりにもつながり、大変ありがたく思っている。

このように、海外での学会参加には、距離や言葉の壁、発表に際しては資料の英訳等、国内の学会とは異なる大変さがあるが、世界の最新

の動きを直接に入手でき、その場に行かないと知り合えない方々と直接話せるなど、プラスの要素は大きい。参加・発表は、チャレンジして世界を広げる良い機会だと思う。日本からの参加・発表が少ないことは大変残念である。これからは、特許情報関係の分野においてもこのような海外の催しにも目を向け、外に出て行く方々が増えることを願っている。

注 記

- 1) INFOPROシンポジウム
<http://www.infosta.or.jp/symposium-top/>
- 2) 日本知財学会 学術研究発表会
<https://www.ipaj.org/workshop/>
- 3) 特許・情報フェア&コンファレンス
<http://www.pifc.jp/>
- 4) PIUG <http://www.piug.org/>
- 5) IPI-ConfEx <http://www.ipi-confex.com/>
<http://www.ipi-confex.com/testimonials.htm>
- 6) PIAC (Patent Information Annual Conference of China; 通称: 中国特許情報フェア)
<http://www.piac-china.com/>
http://www.piac-china.com/eng/Index_eng.html
- 7) 特許検索競技大会
<https://www.ipcc.or.jp/contest/>
- 8) <http://www.ipi-confex.com/background.html>
- 9) IPI-ConfEx Discussion List
<http://www.ipi-confex.com/discussion%20list.htm>
- 10) <http://www.tprinternational.com/>
- 11) Hall of Fame (IPI-Awardの受賞者)
<http://www.ipi-award.com/>
- 12) QPIP(Qualified Patent Information Professionals)
<http://www.qpip.org/>
注: QPIPとは、特許情報の専門家を評価する資格を作ろう、という計画であり、the Patent Documentation Group (PDG), the Confederacy of European Patent Information User Groups (CEPIUG), the Patent Information User Group (PIUG) などの欧米の特許情報関係学会・グループが中心となり、欧州特許庁等の協力を得ながら進めている。
- 13) <http://www.epo.org/learning-events/events/conferences/pi-conference.html>

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

- 14) <http://www.epo.org/learning-events/events/conferences/2016/emw2016.html>
 15) 桐山 勉, 情報の科学と技術, 61巻8号, 328 (2011), 62巻9号, 396 (2012), 63巻8号, 344 (2013), 64巻10号, 442-443 (2014), 65巻7号, 319-321 (2015), 66巻7号, 361-364 (2016)

参考文献

- ・都築 泉, 情報管理, 54 (4) 221-223
 ・石井 浩, 情報の科学と技術, 55巻2号, 72-75 (2005)
 ・桐山 勉, 都築 泉, 中村 栄, 情報管理, 55 (10) 778-781

HP参照日は全て2016年8月31日

表1 PIUG2016の全体スケジュール

日付	行事予定		
5/21 (土)	ワークショップ, 発表者の招待夕食会		
5/22 (日)	ワークショップ PIUGビジネスミーティング 初回参加者対象の歓迎レセプション&オリエンテーション 参加者対象のレセプション		
日付	時間帯	内容	発表数
5/23 (月)	8:30am- 8:45am	開会式	
	8:45am- 9:45am	基調講演 特許情報の重要性	1
	9:45am-10:00am	出展社による製品・新サービス紹介	
	10:00am-10:30am	休憩	
	10:30am-12:05pm	セッションA イノベーションと技術移転	3
		出展社による製品・新サービス紹介	
	12:05pm- 1:05pm	昼食	
	1:05pm- 3:05pm	セッションB 競合他社情報	4
		出展社による新製品・サービス紹介	
	3:05pm- 3:35pm	休憩	
3:35pm- 4:40pm	セッションC USPTOからの発表等	1	
	出展社による新製品・サービス紹介		
6:30pm-10:30pm	パーティー, PIUG活動への貢献者表彰式		
5/24 (火)	8:30am-10:20am	セッションD パネルディスカッションと発表等	パネルディスカッション+1
		パネルディスカッション: 特許検索者の資格認定について	
		出展社による新製品・サービス紹介	
	10:20am-11:50am	公開展示	
	11:50am- 1:00pm	昼食	
	1:00pm- 3:20pm	セッションE 特許解析	5
		出展社による新製品・サービス紹介	
3:20pm- 3:50pm	休憩		
3:50pm- 5:35pm	セッションF 特許庁の情報等	4	
5/25 (水)	8:30am-10:10am	セッションG パネルディスカッションと発表等	パネルディスカッション+1
		パネルディスカッション: 知的財産の品質	
		出展社による新製品・サービス紹介	
	10:10am-10:40am	休憩	

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

5/25 (水)	10:40am-12:00pm	セッションH	効果的な特許調査Part1	3
	12:00pm- 1:00pm		昼食	
	1:00pm- 2:40pm	セッションJ	効果的な特許調査Part2	4
	2:40pm- 3:10pm		休憩	
	3:10pm- 4:25pm	セッションK	先行技術調査の動向	3
	4:25pm- 4:40pm		閉会式	
5/26 (木)	8:00am- 3:00pm	ワークショップ		

参考：PIUG2016の出展各社の例

Beijing incoShare, Bizint Solutions, EPO, GQ Life Sciences, Gridlogics, IEEE, IFI CLAIMS, Innography, IP Korea Center, IP.com, LexisNexis, Minesoft. PatentSight, ProQuest Dialog, Questel, Search Technology, STN, Thomson Reuters, TPR International, Wisdomain

表2 PIUG2016における発表タイトル

【1日目】 Monday, May 23		発表者
1	Keynote Presentation: The Criticality of Searching for Quality Patents	Marc Adler, Marc Adler LLC
Session A: Innovation & Technology Transfer		Chairperson - Cathy Chiba, Dauratus Research
2	Portfolio-Based Comparative Valuation for the Investment Pitch: A Shark Tank Primer	Kevin Hess, Patent Technics
3	Gene or genus? Genetic Sequence Motifs and Their Influence on Patentability	Kristine Atkinson, A/A Patent Investigations
4	Use of Patent Metrics to Identify Scientific Knowledge Flows and Research Collaborations at the Department of Energy National Laboratories	Vanessa Peña, Science and Technology Policy Institute (STPI), Washington, D.C.
Session B: Competitive Intelligence		Chairperson - Brooke Gunter, Thomson Reuters
5	Tracking Innovation - Enhancing Quality of Weekly Patent Alerts	Piotr Masiakowski, Sanofi US
6	The Development and Growing Need for Patent Litigation Analytics	Diana J. Koppang, Neal, Gerber & Eisenberg LLP; Emily Florio, Finnegan, Henderson, Farabow, Garrett & Dunner LLP
7	Trends of the Important Technologies in the Portfolio	J. Jaya Murthy, Eaton Corp.
8	Effective IP Competitive Intelligence for Winning Strategies, Value Creation and Competitive Advantage	Yateen Pargaonkar
Session C		Chairperson - Heather Simmons, University of Illinois
9	A Review of Recent Efforts by USPTO to Enhance the Quality of Prior Art Found by and Provided to Its Patent Examiners	Donald Hajec, USPTO
【2日目】 Tuesday, May 24		
Session D		Chairperson - Dan Shalloe, EPO
10	Moderated Q&A Panel on Patent Searcher Certification Moderator - Dan Shalloe, EPO	Andrea Davis, Nuvasive; Susanne Hantos, Davies Collison Cave; Chirag Shah, University of Illinois; and Michael Wustmans, University of Bremen
11	Minesoft Chemical Explorer - Opening Up the World of Chemical Patents	Rob Poolman, Minesoft Ltd. - Sapphire Sponsor

Session E: Patent Analysis		Chairperson - Vanessa Pena, IDA Science and Technology Policy Institute
12	A Framework for IP-enabled Business Strategy	Anand Rohit, TechInsights
13	Strategic Patent Portfolio Analysis: A Case Study	Bjorn Ulmer, PatentSight GmbH
14	Analyzing and Developing Patent Intelligence Competences – Benefits of a Patent Management Maturity Model	Michael Wustmans, University of Bremen - Institute of Project Management and Innovation
15	Patent Quality Assessment Accuracy and Its Overall Impact	Mohammed Abdul Jaleel and Sridhar Reddy, IP Decision Research & Knowledge Services
16	Case Study: Analyzing Patent and Non-patent Literature to Evaluate the Development Landscape for Medical Devices	John Willmore, BizInt Solutions, Inc. - Sapphire Sponsor
Session F: Searching Patent Authorities		Chairperson - Jim Brown, FIZ Karlsruhe
17	Using Worldwide Patent Office Websites to Find Patent Information	Cynthia Gallagher, Pfizer Legal Division
18	Virtual Analysis on a Deodorant Strategy of Procter & Gamble Through Mandatory Hypothesis Thinking & Pseudo-experience	Tsutomu (Ben) Kiriya
19	Global Patent Prosecution Featuring Global Dossier	Jessica Patterson, USPTO
20	Update from the European Patent Office (EPO)	Daniel Shalloe, European Patent Office
【3日目】 Wednesday, May 25		
Session G		Chairperson - Tom Wolff, Wolff Information Consulting LLC
21	Moderated Q&A Panel on Quality Issues in Intellectual Property Moderator - Tom Wolff, Wolff Information Consulting LLC	Stephen Adams, Magister, Ltd.; Matt Phillips, Renaissance IP Law; Anand Rohit, TechInsights; and Stephen Tedeschi, PatentVantage
22	Implication of CRISPR/Cas-9 on Patent Searchers	Julien Doudement, LifeQuest - Sapphire Sponsor
Session H: Searching for Quality, Part 1		Chairperson - Diana Koppang, Neal, Gerber & Eisenberg LLP
23	Utilizing Semantic Search of Patent and Non-Patent Literature to Drive Innovation, Increase Revenue, Optimize Operations, and Manage IP Risk	Jeff McCormack, IP.com, and Joe Buzzanga, IEEE
24	Ursula's Apple Orchard: Value-Added Patent Tools in the New Millennium	Heather Simmons, University of Illinois College of Law
25	Quality in Manual Patent Searching Compared to Automated Tools	Andrea Davis, Nuvasive
Session J: Searching for Quality, Part 2		Chairperson - Ron Kaminecki, Kaminecki IP
26	Similarity Search in Patents via Artificial Intelligence	Sumeet Sandhu, Elementary IP
27	Novel Approach for Locating Patent Information: Application for Pharmaceutical Repurposing Research	Rong Yang, Allergan
28	Bridging the Gap: Using Company Financials and Metrics in Patent Analytics	Esmacel Khaksari, Innography - Sapphire Sponsor
29	Activities of the Patent Search Grand Prix (PSGp) 2015 in Japan: Implementation of the International Section	Sakae Nakamura
Session K: Trends in Prior Art Searching		Chairperson - Darryl Newell, Terumo Americas Holdings, Inc.
30	Quality at Source: Understanding the "Dirty Database" Syndrome	Stephen Adams, Magister Ltd.

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

31	The Case for Curated Content in the Age of Algorithms	Brian Sweet, STN - Sapphire Sponsor
32	Searching for the Obvious	Ron Kaminecki, Questel

注：表2は開催前の主催者からの発表による；当日の変更は反映していない。

表3 IPI-ConfEx2016の全体スケジュール

日付	時間帯		行事予定／発表予定タイトルより一部抜粋
2/28 (日)	13:45-18:00	発表数	ワークショップ, レセプション, 展示
2/29 (月)	9:00- 9:15		開会式
	9:15-10:55	3	グローバルドシエ, 法的状況データ, EP特許登録とユニタリー特許
	10:55-11:30		休憩, バンダー・デモンストレーション
	11:30-11:40		先の時間帯の発表に関するパネルセッション (質問タイム)
	11:40-12:25	2	STN製品紹介, 中国特許の更なる重要性
	12:25-13:45		昼食
	13:45-15:20	4	特許ポートフォリオ, PatBaseの強化・新製品, 欧州の異議申し立てと先行技術, 特許の無効化, BizInt Smart Charts
	15:20-15:55		休憩, バンダー・デモンストレーション
	15:55-16:50	4	PatentInspirationで扱うビッグ特許データ, Ambercite, 中国特許の統計, 特許情報専門職の将来
	16:50-17:00		IPI-Awardの発表
18:00-21:00		ディナー, IPI-Awardの贈呈	
3/1 (火)	9:00-10:21	4	IPオペレーションとGoogle, EPOによる先行技術調査・法的確実性, GenomeQuest Sequence Search, VantagePoint
	10:21-10:50		休憩, バンダー・デモンストレーション
	10:50-12:20	4	米国特許業務の簡便化, パテントポートフォリオの分析, EPOのPATSTAT, ソーシャルメディアと特許情報サービス
	12:20-13:30		昼食
	13:30-14:50	3	製薬製品の保護と市場性, ランドスケープ, PatBaseとChemical Explorerによる特許のランドスケープ
	14:50-15:30		休憩, バンダー・デモンストレーション
	15:30-16:30		IPI Knowledge Exchange (少人数のグループに分かれて, 特定テーマに関するディスカッション)
	16:30-17:10		IPI Knowledge Exchangeでのディスカッション内容の報告
3/2 (水)	9:00-10:10	3	特許情報専門家の資格, 継続的な専門性の向上, 調査の質の向上
	10:10-10:20		先の時間帯の発表に関するパネルセッション (質問タイム)
	10:20-11:15		休憩, バンダー・デモンストレーション
	11:15-12:10	2	特許情報とビジネスニュースによる企業戦略分析, 実用新案検索part1
	12:10-13:15		昼食
	13:15-14:35	1	実用新案検索part2, DPMA (ドイツ特許商標庁) のオンライン調査サービスの最近の状況
	14:35-14:45		閉会式

参考：IPI-ConfEx2016の出展各社

Bizint Solutions, VantagePoint, EPO, GQ Life Sciences, IEEE, LexisNexis, Minesoft, PatentSight, ProQuest Dialog, Questel, STN, TPR International, PATENT INSPIRATION, Ambercite, infoapps, ITE, Averbis, IPlitics, ChemAxon, Research information

表4 IPI-ConfEx2016 発表スケジュール

【1日目】 Monday 29 February 2016	
	WelcomeRemarks (9:00-9:15) Ford Khorsandian- IPI-Organisation
1	Global Dossier (Tool) - The One-Stop-Shop for Patent Information of the 5 Biggest Patent Offices, IP5 Monika Hanelt - PDG; Manager Patent Information, Agfa Graphics
2	What Legal Status Data Should be Exchanged by Patent Offices Worldwide - WIPO's Initiative and Progress of the Task Force (LSTF) Young-Woo Yun - Senior Industrial Property Information Officer, WIPO
3	European Patent Register - The Impact of the Unitary Patent and Other Developments Yolanda Sanchez Garcia - European Patent Register Business Application Manager, European Patent Office
	10:55-11:30 Converse, Refresh & Vendor Demonstrations
4	STN Product Update - Increased Efficiency in Patent Search and Evaluation Elke Mueller - Head STN Sales Industry & IP, FIZ Karlsruhe
5	The Growing Importance and Enforceability of Patents in China - A Review of the Chinese Patent Legal System and the Process of Challenging the Validity of a Patent Erick Robinson - Chief Patent Counsel, Asia Pacific, Rouse & Co. International LLP
	12:25-13:45 Conference Networking Lunch
6	Patent Portfolio Building Jan Witt - Global Business & Strategy Development Manager, ProQuest
7	PatBase Enhancements & New Minesoft Products Rahman Hyatt - Director, Minesoft
8	Prior Art in European Oppositions - With Review of Several Recent European Opposition Cases Fanny Coignard - Manager, Patent Searching & Information, Pfizer
9	Establishing Invalidity: The Inspector Javert Approach to Killing Patents - with Case Studies and Examples Clay Matthews - Chief Intellectual Property Counsel, NewMarket Corporation
10	New Features for Creating IP Reports with BizInt Smart Charts for Patents Diane Webb - President, BizInt Solutions
	15:20-15:55 Converse, Refresh & Vendor Demonstrations
11	BIG Patent DATA with PatentInspiration; New opportunities for predictive analysis, tech transfer innovation and AI Simon Dewulf - CEO, AULIVE
12	Introduction to Ambercite - A New Search and Analytics Approach That Can Help You Find Better Patents Faster Doris Spielthener - CEO, Ambercite
13	A Snapshot of the Latest Chinese Patent Statistics Trudi Jones - Vice President, TPR International, Inc.
14	The Future of the Patent Information Profession - Possible Threats, Opportunities and Areas for Development Bettina de Jong - Global Head Patent Analysis, Shell International B.V.
	16:50-17:00 IPI-Award Announcement
	18:00-21:00 Conference Gala Dinner & Networking Event, featuring the IPI-Award Presentation
【2日目】 Tuesday 1 March 2016	
1	IP Operations: Critical to Large-Scale Portfolio Development - The Google Perspective Nigel Hsu- Head of Patent Ops, Verily Life Sciences (Google)
2	The EPO as the Global Gateway to Prior Art Searches and Legal Certainty - With Review of the Examiners Set of Tools John Bambridge - Principal Director DG1 Automation, European Patent Office
3	What all GenomeQuest Sequence Search Users Should Know About LifeQuest Henk Heus - VP Product & Services, GQ Life Sciences
4	What's New in VantagePoint Nils Newman - President, Search Technology

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

	10:21-10:50 Converse, Refresh & Vendor Demonstrations
5	Eliminating Frustration and Uncertainty from Your U.S. Patent Efforts – A Simple Workflow Modification That Will Put You Back in Control Christopher Holt – VP of Patent Analytics, LexisNexis
6	New Ways of Analyzing My Patent Portfolio Felix Coxwell - Product Manager, Questel
7	Using the EPO's PATSTAT Database Just Got Easier! Christian Soltmann - Coordinator, Business Use of Patent Information, European Patent Office
	12:20-13:30 Conference Networking Lunch
8	How Corporate Social Media Can Promote Patent Information Services Torsten Gerber - Director Search, Documentation, Information Processing, Robert Bosch GmbH
9	The Challenge of Finding the Patent Number Protecting a Pharmaceutical Product and Estimating its Market Exclusivity Paula Juckes - Senior Patent Information Specialist, UCB
10	Landscaping: Is a Picture Worth a Thousand Words? How to Build the Capacity for the Product Offering In-House Lesley MacLachlan - Senior Information Scientist, GSK
11	Effective Patent Landscaping Using PatBase and Chemical Explorer: A Case Study Rob Poolman - Senior Manager, Innovation and Consulting, Minesoft Aalt van de Kuilen - Patent Information Services
	14:50-15:30 Converse, Refresh & Vendor Demonstrations
	15:30-16:30 IPI Knowledge Exchange Discussion Session
	16:30-17:10 IPI Knowledge Exchange Report Backs

【3日目】 Wednesday 2 March 2016

1	Update on the Certification of Patent Information Professionals Bettina de Jong - Global Head Patent Analysis, Shell International B.V.
2	Let's Enjoy Continuing Professional Development (CPD) Tutomu Kiriyama - Chair of PDG of INFOSTA
3	Search Quality Improvement by (Personal) Coaching - How to be an Expert? Gerard Ypma - Senior Patent Searcher, ASML
	10:20-11:15 Extended Converse & Refresh and Vendor Demonstrations
4	Analysis of Corporate Strategy Based on Patent Information and Business News Izumi Tsuzuki – HIT Service Institute
5	IPI MasterClass: Utility Models for the Patent Searcher – Blood, Toil, Tiers, and Sweat? PART 1 Stephen Adams
	12:10-13:15 Conference Networking Lunch
6	IPI MasterClass: Utility Models for the Patent Searcher – Blood, Toil, Tiers, and Sweat? PART 2 Stephen Adams
7	Recent Developments in Online Search Services of the DPMA (German Patent and Trade Mark Office) – Covering Patent Publications and Legal Status Databases Harald Seitz - Head of Customer Care and Services, DPMA
	14:35-14:45 Closing Remarks

注：表4は開催前の主催者からの発表による；当日の変更は反映していない。

(原稿受領日 2016年9月2日)